

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 25 日現在

機関番号：35412
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21530817
 研究課題名（和文） 未刊行資料の解読によるフレーベル「教具」の体系的研究
 研究課題名（英文） A Study of the Systematization on Fr.Froebel's
 Educational Toys: Examining its Unpublished Material
 研究代表者
 小笠原 道雄 (OGASAWARA MICHIO)
 広島文化学園大学・学芸学部・教授
 研究者番号：10053612

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、フリードリヒ・フレーベルの「教育遊具」の体系化を未刊行資料(遺稿を含む)の解読によって図るもので、特に、1.ベルリン陶冶史研究図書館保存の諸資料、2.ベルリン国立図書館所有のプロイセン文化財団の関係遺稿、3.バート・ブランケンブルグ フレーベル博物館所有の諸遺稿を調査し、収集し、その解読に依ってわが国では初めてその体系化を達成した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to make the systematize on Friedrich Froebel's educational Toys, especially, achieved by reading and unpublished material (including 1.BN Unpublished on Library of Educational Research in Berlin(BBF), 2.NK Unpublished of Prussian Culture Foundation in the manuscript section on Berlin State Library, 3.BIM Unpublished of Froebel Museum in Bad Blankenburg).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：フレーベル、教育遊具、遊戯、幼稚園、遺稿

1. 研究開始当初の背景

(1) わが国におけるフレーベル「教育遊具(教具)」は、「恩物」として 1876 年、関信三(1843-79)によって東京女子師範学校

附属幼稚園に導入されるが、そこでは「恩物」と「作業具」が混同され、しかもフレーベルが構想した第七から第十段階の「恩物」をも含む「二十遊戯」として誤

って伝達、導入、使用されてきた。

- (2) このフレーベル「教具」のわが国への伝達の「誤り」は、驚くことに1996年、第1回日独フレーベル国際会議(ドイツ・バート・バートブランケンブルクで開催)で、荘司泰弘によって初めて明らかにされたのである。荘司が使用した文献は、旧東ドイツ・ベルリン「教育科学アカデミー」保存の資料とバート・ブランケンブルクが所有する「フレーベル博物館」の諸資料によるものである。
- (3) ただ荘司の研究は、フレーベルの「恩物」と「作業具」、更には、構想された「恩物」「作業具」を中心とする「遊具」の研究に限定されたもので、必ずしもフレーベル「教具」の全体を対象とするものではない。フレーベルの中核的なかつ実践的な活動である「教育遊具」はその全体像をもっており、従って、その体系的考察は不可欠なものである。

2 研究の目的

- (1) 本研究は、Fr.フレーベルの創作的なかつ実践的な活動としての「教具(遊具・作業具を含む)」の全体像をドイツ統一後初めて可能となった未刊行資料(遺稿)の収集と解読によって明らかにし、その体系化を図るものである。
- (2) Fr.フレーベルの「教育遊具」に関する研究が世界的規模で今日にいたる迄、固定的解釈が流布し、「誤導入」し、誤って理解してきた背景として、「教育遊具」に関するフレーベルのオリジナル資料が没後、分散して保存され、あるいは個人に所有されてきたためであって、全体的なかつ体系的な考察が不可能であったと考えられる。ドイツ統一後はじめてその資料のコピーによる全体的な収集と閲読

が可能となりその解読によってその全体像を考察し体系化を図ることができるようになった。

3. 研究の方法

- (1) Fr.フレーベルの「教育遊具」に関するオリジナル資料(未刊行資料、遺稿等)はフレーベルの没後、分散して保存、あるいは所有されていたが1990年のドイツ統一後、初めて、ベルリンの「陶冶史研究図書館(通称:BBF)保存のBN遺稿(これは主として旧東ドイツ教育科学アカデミーが所有していたもの)、並びに「ベルリン国立図書館」のプロイセン文化財団所有「フレーベル遺稿」(これは旧カイルハウ遺稿(KN)と略称される)とバートブランケンブルク「フレーベル博物館(BIM 遺稿)」所有の三カ所にほぼ集約的に保存された。この三カ所を中心に未刊行資料を収集し解読をおこなった。
- (2) フレーベルの「教育遊具」の研究においてはドイツ・フランスのフレーベル研究者(H.ハイラント・ドウイスブルク大学フレーベル研究所長, K.ノイマン・ドイツフレーベル学会会長, M.ソエタール アンジェ教育科学学士院 名誉教授)との共同作業として、これら三カ所における資料の比較考察、分析、解釈をおこなった。
- (3) フレーベル「教具」の体系化の構想は、E.ホフマン(Hoffmann)によって示唆された「遊具(恩物)体系」を一つのモデルとして論者が「フレーベルの発達の・教育的教具の体系」として体系化を図った。

4. 研究成果

- (1) Fr.フレーベル教育遊戯(教具)の体系は、フレーベルの「球体法則」と「媒介の法則」を結合させながら構成されている。構成の柱

(構成要素)は、以下時計文字 I.家庭育児書『母の歌と愛撫の歌』(1844)、II. 遊戯手段としての教育遊具(恩物と作業具)、そして III.運動遊戯の柱で構成されるが、この柱は時期的に時計文字順ではなく、II—III—I の順(時期)で構想されている。

(2)フレーベルは晩年、乳幼児を対象とした育児書『母の歌と愛撫の歌』(1844)を刊行し、母親と子どもの身体的接触を通じた感覚遊戯を重視した。

(3)遊戯手段としての教育遊具は、子どもの成長・発達を考慮して考案されており、具体的には家庭における「教育遊具」、幼稚園における「教育遊具」、媒介学校における「教育遊戯」、基礎学校における「教育遊具」に区分される。

(4)このフレーベルの「教育遊具」は、基本的な形式(形)を保持し、その基本的な形として四つのグループ(a 立体、b 平面 c 直線 d点)に区分され、それぞれに生活形式、美的形式、認識形式を示している。

(5)時計文字 III 「子ども社会における運動遊戯」は、特にフレーベルが子どもの社会性を培うものとして集団的な「運動遊戯」(身体運動)等を考え、具体的に、歌いながら運動するための『ボール遊びのための百の歌』(1844)を制作した。

(6)Fr.フレーベルの教育遊具の体系には、「遊具」の分割的過程と構成的過程が考えられ、それらが結合し全体を構成している。

なお、論者は Fr.フレーベルの「教具」の体系図を広島文化学園大学『子ども・子育て支援研究センター年報』第1号(平成23年8月)、13頁図1として図示した。

5.主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

① 小笠原道雄、「子ども・子育て支援研究センターで活用するフレーベルの「遊戯」と「教育遊具」についての考察-その体系性を考慮して-」、『子ども・子育て支援研究センター年報』、査読有、第1号、2011年、5-15頁。

② 小笠原道雄、「書評:H.シュチュビヒ著、F.W.A.フレーベル-あるドイツ教育功労者の伝記とその影響作用史に関する論文集-」、日本ペスタロッチ・フレーベル学会紀要『人間教育の探求』、査読有、第23号、2011年、93-95頁。

③ 小笠原道雄、「新しい資料の解読によるフレーベル「教育遊具」の体系的考察-資料批判と今日的課題-」、『広島文化学園短期大学紀要』、査読有、第42号、2009年、1-10頁。

[学会発表](計3件)

① 小笠原道雄、第27回大会記念講演:M.ソエタール「フランスにおけるペスタロッチとフレーベルの受容について」の司会と討論、日本ペスタロッチ・フレーベル学会、2009年9月12日、実践女子大学。

[図書](計4件)

① 小笠原道雄、小笠原道雄編著、福村出版、『道徳教育の可能性—徳は教えられるか—』、2012年、1-274頁。

② OGAWARA, Michio; 'Zum Stand der Theodor-Litt-Forschung in Japan', in: J. Blecher/P.G.Loeser/D.Schulz(Hrsg.)"Freiheit und Lebensordnung", Leipzigersverlag, 2011.1-145.(独文)

③ OGASAWARA, Michio; 'Die Rezeption E. Sprangers und Th.Litts in Japan', in: P.G. Loeser/D.Schulz/H.W.Wollensheim(Hrsg.)"Theodor Litt—Eduard Spranger", Leipziger Universitaetsverlag, 2009.1-220.(独文)

④ 小笠原道雄、小笠原道雄編著、福村出版、『進化する子ども学』、2009年、1-302頁。

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小笠原 道雄 (OGASAWRA MICHIO)
研究者番号：10053612

(2) 研究分担者：なし

(4) 連携研究者：なし

(5) 研究協力者：ミシェル・ソエタール
(Mischel Soetard) フランス アンジェ教育科学学士院名誉教授, イヴェルドン・ペスタロッシー研究・文献センター学術顧問。